

(記入日：2022年 9月 1日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

心理学統計法 (1年前期必修科目2単位)、心理学統計法 (応用) (1年前期選択必修科目2単位)、心理学実験 (基礎) (応用) (2年前期必修科目、後期選択必修科目、各2単位)、認知心理学概論 (2年前期選択必修科目2単位)、心理統計法特講 (1) (2) (大学院前期、後期選択必修科目、各2単位) など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標は、学生が科学的方法によって心を理解し、さらに自ら問題を具体的に設定し、身の回りの人的・文化的資源と積極的に関わりながら、主体的に問題解決に至る態度を身につけることである。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

今年度前期は対面授業を実施したが、ほとんどの授業で昨年度までのMS365のTeamsを利用してオンライン形式を併用した。Teams内の「ファイル」にパワーポイントなどで作成した資料を用意し、Formsを利用した「課題」を毎回実施して学生に回答を求め、その結果を平常点評価に活用した。心理学統計法においては、貸与されているiPadとExcelを使用させて統計計算を行わせた。心理学実験では、資料を可能な限りオンラインで配布し、対面の実験を実施した。レポートの提出、フィードバック、返却は、すべてTeamsの「課題」を活用した。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

心理学統計法においては、エクセルファイルを事後に配布し、事後学修をうながした。大学院でも統計言語Rを用いて、Teamsを活用した実習を行なった。しかしこれらの教育効果は、受講生により開きが大きく今後の課題となった。(エビデンス1)。

5 今後の目標 (これからどうするか)

学部年の統計、大学院の統計に共通する事項として、基礎的知識の理解と、実践的・応用的な問題解決技能の両方に課題があったことから、今後、受講生の理解を確認するステップを設けるとともに、応用的な課題を加えて問題解決技能の修得を促したい。

6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

- 1 Office 365 Teams 各科目のグループ (非公開)

ティーチング・ポートフォリオ

心理学科 西川 將巳

(記入日：2023年 2月 1日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

<大学院>

- # 精神医学 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)
- # 心身医学 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)
- # 臨床心理実習 I (SuperVision / CasePresentation 指導)

<学部>

- # 心理実習 (入門)
- # 心理学ゼミナール
- # 健康・医療心理学
- # 精神疾患とその治療
- # 人体の構造と機能及び疾病

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

自らが培ってきた心身医学的臨床・研究における知識や経験をベースに、臨床心理の道を志す学生や臨床心理に興味を有する学生達に、その有意義さや深淵さを心行くまで伝授すること。そして、人の心にしっかりと共感でき、心身の健康の大切さを理解し、社会に貢献出来得る後進の育成に携わること。今年度限りで退官するが、川村学園女子大学での17年間、この理念のもとに後進の育成を心掛けて来た。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

「精神医学」および「心身医学」の講義では、まずその基本的な知識や診断・治療技法を、単なる座学のみならず、学生同士で Discussion させながら習得・習熟させるようにしている。疾患の特性により、それらの技法をどのように組み合わせればよいか等の点に関しても、様々な事例を提示しながら、即、実践で使えるような形で教授している。「臨床心理実習 I」においては、実際に心理相談センターに来院されるクライアントのインタビューに同席させたり、治

療面接に携わらせている。さらに、その面接の都度、毎回、詳細な SuperVision を行ない、具体的、実践的指導を行っている。

「心理実習（入門）」では、学部1年生に、しっかりと実習の心構えを指導・理解させた上で、実際の心理臨床の場を体験・見学させている。（今年度は新型コロナの動静を見ながら、でき得る範囲で実習させることができた。）「心理学ゼミナール」では、学部3年生に心理学的研究の基礎を理解させ、具体的に論文・研究の進め方を指導している。

「健康・医療心理学」「精神疾患とその治療」「人体の構造と機能及び疾病」の3科目は、公認心理師受験資格に必修の科目であるが、心理師にとっても必要な医学的知識を、医師の立場から厳選して教授している。具体的には、「健康・医療心理学」においては、まさに心身医学の根幹である心身相関、即ちストレスと心身症状との関連について、心療内科医としてのこれまでの豊富な経験と知識から、具体的に様々な症例を示しつつ教授している。「精神疾患とその治療」においては、精神疾患の捉え方を、まずは歴史的変遷の観点から説明しつつ、様々な精神疾患の特徴やその病理について理解させ、薬物療法のみならず、その心理的治療法について教授している。「人体の構造と機能及び疾病」においては、一般の教科書だけでは足りない解剖学的図譜を追加で示したり、DVDを見せたりしながら、イメージとして脳裏に定着できるような講義を行っている。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

大学院の臨床志望の学生たちの多くは、これまで臨床心理士や公認心理師の資格を取得し、様々な臨床の現場で活躍している（昨年度の大学院修了生・在学生で公認心理師試験を受験した8名の学生全員が合格した）。学部の学生も、公認心理師資格取得を目指している学生が増えて来ている。臨床以外の道を志す学生や医療秘書を目指す学生たちも、基本的な心理学的知識を身に付け卒業し、自らの志す道を歩み、社会に貢献している。

5 今後の目標（これからどうするか）

今年度をもって川村学園女子大学を退官するが、これまで通り、心理専門職を志す学生たちを応援して行きたい気持ちは変わらない。学生すべてが、自らの目指す社会人として成長して行かれんことを願っている。余生は、一心療内科医として、微力ながら地域医療に貢献して行きたい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

これは、私だけの力ではなく、多くの心理の先生方のご指導ご鞭撻のおかげであり、そして、何よりも修了生自身の努力の賜物であると思うが、これまで、当学大学院の修了生の 170 名近くが臨床心理士として社会で活躍している。また、多くの修了生が、近年、国家資格化された公認心理師資格を取得している。

<参考資料（一部）>

#小島有里子・西川將巳「高齢者の認知機能障害と抑うつ状態からみた 4 類型の特徴」川村学園女子大学大学院研究年報（第 5 号）2016 年 1 月

#藤井くるみ・西川將巳「就寝前におけるネガティブな反すうが抑うつおよび不眠に与える影響」川村学園女子大学大学院研究年報（第 7 号）2018 年 1 月

#小島有里子・西川將巳ら「パーキンソン病及び、認知症を含むパーキンソン病関連疾患等における表情認知機能の特徴」川村学園女子大学大学院研究年報（第 8 号）2019 年 1 月

#北島智子・田中裕・西川將巳「認知症高齢者における「タッチケア」のリラクゼーション効果」川村学園女子大学大学院研究年報（第 9 号）2020 年 1 月

#利根川公子・西川將巳「強迫関連障害を呈する 60 代女性の面接過程—傾聴を主軸として—」川村学園女子大学心理相談センター紀要（第 17 号）2021 年 10 月

#日沼咲・西川將巳「職場の人間関係を主訴に來所した 20 代女性の心理面接—怒りのコントロールについて—」川村学園女子大学心理相談センター紀要（第 17 号）2021 年 10 月

#日沼咲・大谷真・田中裕・簗下成子・西川將巳「緊急事態宣言により待機中の大学生の心身状態とその関連要因 ウェブ調査データからの検討」日本社会精神医学会雑誌(0919-1372)31 卷 3 号 Page242-251 2022 年 8 月

ティーチング・ポートフォリオ

心理学科

氏名 田中 裕

(記入日：2022 年 9 月 7 日)

1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

「心理学概論（基礎）」「心理学実験（基礎）」「心理学実験（応用）」「心理実習（入門）」「心理学ゼミナール」「心理調査法」「生理心理学特講（1）」「生理心理学特講（2）」など。

2 理念（なぜやっているか：教育目標）

教育理念・目標として、学生自身にも内在している身体および脳の視点から心を理解することを目指している。日常生活の中に根づいているこの視点を出発点として、自ら問題を具体的に設定し、身の回りの人的資源も使って主体的な問題解決に至る方向へ導くよう心がけている。さらに、可能な限り個別対応をすることで、学生の特性に合わせた教育を行うように努めることも理念・目標としている。

3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

自身に内在する視点から主体的な問題設定から解決に至る機会を作るために、心理学概論（基礎）では可能な授業テーマ全てにおいて脳や身体に帰結するようにした。心理学実験（基礎）では、自身の身体感覚を明確化して取り扱い、相互協力によるレポート課題解決から、心と身体感覚の関連を検討させた。また、心理学ゼミナールでは個別対応・個別指導の時間を長く取ることで、より綿密な指導を心がけた。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

心理学概論（基礎）では、学修過程において脳や身体を心と関連づけて考えることが確認された。心理学実験（基礎）ではレポート作成時に配布資料を用意して内容理解の促進を心がけた結果、昨年度よりは学修成果が上がったことが確認されたが、まだ十分ではないと認識する。心理学ゼミナールでは個別対応・指導の時間を昨年度より長くすることで学修成果が上がったことが確認さ

れた（エビデンス 1 および 2）。

5 今後の目標（これからどうするか）

どの授業においても、主体的な問題解決する方向を向かせることはできたと考える。また昨年度までの課題であった基礎能力および興味・意欲の個人差については、授業によっては個別指導実施時間を長くすることである程度補填できたと考える。今後はオンライン手法も含め、新たな資料を使用した事前事後学修の促して、より効率的な授業進行を工夫したい。さらに、オンライン授業受講の個人差が確認されているので、この点についても授業方法の改善に努めたい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 リアクションペーパー（非公開）
- 2 小レポート（非公開）

ティーチング・ポートフォリオ

文学部心理学科

今井 正司

(記入日：2022年9月30日)

1 教育の責任 | 何をやっているか：担当科目

学部では、心理実習（入門）、心理実習（応用）、特殊研究、心理学ゼミナールの科目を担当している。大学院では、臨床心理学特論、臨床心理基礎実習、臨床心理査定演習 I、臨床心理学実習 II、臨床心理面接特論 I、心理学特別研究を担当している。

2 理念 | なぜやっているか：教育目標

担当授業における教育目標は、獲得された心理学の知見を実社会で生かすことのできる人材の育成である。担当科目は心理師の資格取得に伴う実習などを含めた専門的な科目ではあるが、履修学生の進路は多種多様である。しかしながら、心理学の知見を生かそうとする姿勢やそのプロセスを意識することは、「基礎知識に基づいた応用力」として現代の社会に求められる能力の一つである。そのため、履修学生の多様な進路にも対応できるような具体的なイメージを共有できるような展開を心がけ、学生一人一人が社会で活動できる能力を心理学を通して身につけられることに意識をおいている。

3 方法 | どのようにやっているか：実践の工夫

履修学生は少人数であり、実践的な活動を伴う活動が授業内容に多いことから、学生の特徴や興味関心を把握しながら、学生のニーズにあった学びの場を提供できるように努力した。たとえ

ば、具体的な事例などを積極的に取り上げて、アクティブラーニングの様式で授業を展開した。また、パワーポイントのスライドを写す形式だけではなく、iPad を板書代わりに用いたりリアル感のある授業展開を心がけた。これらの「電子版書」はクラウドシステムを通じてダウンロードできるように設定し、復習の教材としても利用できるようにした。

4 成果 | どうだったか：結果と評価

アクティブラーニング形式の授業形態を展開したおかげで、その都度、学生からの質問などを受け、回答することができた。また、資料をクラウドにアップしておくことで、振り返り教材として利用されていたことは、心理学の授業においては効果的な方法であることが確認できた。前期末のレポート提出においては、アクティブラーニングを行った成果が十分に反映された内容であり、自らリサーチクエスチョンを設定して、回答するというプロセスが十分果たせていた。

5 今後の目標 | これからどうするか

今後は知識習得の状況を常に確認できるように取り組みながら、学生に必要な知識を良いタイミングで提供できるように心がけたい。今後は、個人で運営しているウェブサイトなどを通して、授業に関連する発展的なトピックなどについても、事前にアクセスできるような取り組みを積極的に行いたいと考えている。

6 エビデンスとなるもの | 資料の種類などの名称

- a) Teams の記録 (非公開)
- b) 前期末レポート (非公開)
- c) 個人ホームページにおける授業資料 (非公開)

ティーチング・ポートフォリオ

文学部心理学科

今井 正司

(記入日：2023年2月28日)

1 教育の責任 | 何をやっているか：担当科目

学部では、心理実習（入門）、心理実習（応用）、特殊研究、心理学ゼミナールの科目を担当している。大学院では、臨床心理学特論、臨床心理基礎実習、臨床心理査定演習 I、臨床心理学実習 II、臨床心理面接特論 I、心理学特別研究を担当した。

2 理念 | なぜやっているか：教育目標

担当授業における教育目標は、獲得された心理学の知見を実社会で生かすことのできる人材の育成である。担当科目は心理師の資格取得に伴う実習などを含めた専門的な科目ではあるが、履修学生の進路は多種多様である。しかしながら、心理学の知見を生かそうとする姿勢やそのプロセスを意識することは、「基礎知識に基づいた応用力」として現代の社会に求められる能力の一つである。そのため、履修学生の多様な進路にも対応できるような具体的なイメージを共有できるような展開を心がけ、学生一人一人が社会で活動できる能力を心理学を通して身につけられることに意識をおいている。

3 方法 | どのようにやっているか：実践の工夫

履修学生は少人数であり、実践的な活動を伴う活動が授業内容に多いことから、学生の特徴や興味関心を把握しながら、学生のニーズにあった学びの場を提供できるように努力した。たとえ

ば、具体的な事例などを積極的に取り上げて、アクティブラーニングの様式で授業を展開した。また、パワーポイントのスライドを写す形式だけではなく、iPad を板書代わりに用いたりリアル感のある授業展開を心がけた。これらの「電子版書」はクラウドシステムを通じてダウンロードできるように設定し、復習の教材としても利用できるようにした。

研究指導に関しては、卒業論文・修士論文の研究を実施するにあたり、研究倫理の概略を抗議した上で、学術振興会の講習を全員が受講した。修士論文については、口頭試問で用いたスライドをもとに動画化し、研究室のアーカイブとして自由閲覧できるようにした。

授業外の活動としては、大学院生を中心に認知行動療法研究会を立ち上げ、授業では触れることがない治療技法や研究法について学ぶ機会を共有できるように協力した。発表などで用いられたスライドは、Teams のクラウドに自由閲覧できるようにし、研究会が継続的に運営できるようにした（子ども CBT 研究会として 2022 年 1 月に引き継がれた）。

4 成果 | どうだったか：結果と評価

アクティブラーニング形式の授業形態を展開したおかげで、その都度、学生からの質問などを受け、回答することができた。また、資料をクラウドにアップしておくことで、振り返り教材として利用されていたことは、心理学の授業においては効果的な方法であることが確認できた。前期末のレポート提出においては、アクティブラーニングを行った成果が十分に反映された内容であり、自らリサーチクエスチョンを設定して、回答するというプロセスが十分果たせていた。

5 今後の目標 | これからどうするか

今後は知識習得の状況を常に確認できるように取り組みながら、学生に必要な知識を良いタイミングで提供できるように心がけたい。今後は、個人で運営しているウェブサイトなどを通して、授業に関連する発展的なトピックなどについても、事前にアクセスできるような取り組みを積極的に行いたいと考えている。

6 エビデンスとなるもの | 資料の種類などの名称

- a) Teams の記録（非公開）
- b) 前期末レポート（非公開）

c) 個人ホームページにおける授業資料（非公開）

ティーチング・ポートフォリオ

桂瑠以

(記入日：2022年9月5日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

「基礎ゼミナール」「心理学演習」「コミュニケーション論」「統計と社会」「特殊実験演習」「心理調査概論」「特殊研究」「卒業論文指導」など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

教育理念・教育目標として、学生が心理学、とりわけ社会心理学領域に係わる学修を通じて、社会の様々な事柄に対して広く関心や問題意識を持ち、それらの問題を多角的に考え、主体的に問題解決を行い、社会に貢献していく態度や能力を身に付けられることを目指している。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

学生が主体的・実践的に学修を進めることを目指して、授業法や教材等の工夫を行った。一例として、心理学演習などの授業では、文献検索・収集、発表資料の作成、レジメによる発表、討論を行い、各自が問題意識を持って学修し、学習成果を学生相互で共有し、学修を深められるように指導した。心理調査概論などの授業では、グループでの質問紙調査、面接調査の実習を行い、調査の目的、調査方法、結果のまとめ方、データ処理の方法等を学修し、実際に調査を実施して、心理調査の方法や仕組みを実践的に学んだ。また、基礎ゼミナール、コミュニケーション論、統計と社会などの授業では、講義にあわせて、毎回、小レポート課題やリアクションペーパーを課し、学修内容の深化を図り、また挙げられた質問には可能な限り次回の授業で回答や説明を行い、双方向でのやりとりになるように努めた。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

心理学演習、特殊実験演習、心理調査概論などにおいては、学生が主体的・実践的に学修を進め、授業時間外にも事前・事後学習を行い、教員からの指導や学生同士での支援を生かして、発表やレポート作成の質を高めていったことが確認できた(エビデンス 1, 2)。一方、学修成果や学修意欲に個人差が生じている様

子も見られ、個別の支援をあわせて行いながら、そうした差異に柔軟に対応していくことが今後の課題と考えられる。

5 今後の目標（これからどうするか）

学生が、様々な社会事象や社会の問題に対して広く関心を持ち、自ら問題解決していけるような実践力を身に付けていくことが今後の目標に挙げられる。また、学修の意義や目的を理解し、自ら学修意欲を持って学修に取り組むよう、授業内容及び授業方法等を今後も工夫していくことが挙げられる。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 小レポート課題，リアクションペーパー(非公開)
- 2 前期末試験，レポート(非公開)

ティーチング・ポートフォリオ

心理学科 簗下成子（記入日：2023年2月15日）

1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）心理学ゼミナール（3年通年必修科目 4単位）、臨床心理基礎実習（大学院通年必修科目 4単位）、臨床心理実習Ⅰ（2）（心理実践実習）（大学院 通年必修科目 4単位）臨床心理面接特論Ⅰ,Ⅱ、臨床心理査定演習Ⅰ,Ⅱ（大学院前期、後期必修科目、各 2単位）深層心理学Ⅰ,Ⅱ（大学院前期、後期選択科目）等

2 理念（なぜやっているか：教育目標）教育理念・目標は、学生が臨床心理学の知識と実技を座学と演習、実習により習得し、習得した技術を心理援助に実践できることである。心理臨床専門家としての援助技法を習得する。さらに、臨床心理的援助法の開発と研究手法も身につける。

3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）演習授業の場合、学生が主体的に学べるように、実際に芸術療法実施前後の気分変化の採取データ等を用いて各種療法の効果などを記述させる。また、各種心理尺度を体験しフィードバック用のレポートを書くよう指導した。実習授業の場合、複数教員担当の授業などでは、教員同士のロールプレイを観察させた後に学生同士のロールプレイを実演し、振り返り、ディスカッションなどを経て心理臨床専門家としての技術を研鑽させた。心理査定演習、深層心理学では、受講者本人の心理テストや芸術療法を行い、解析方法を指導し、本人が自分の心理検査結果や芸術療法の深層心理を解釈し、それによって臨床家としての自分を把握し、より援助者としてふさわしい資質を延ばすように工夫した。

4 成果（どうだったか：結果と評価）演習授業の場合、学生が積極的に文献検索やレビューを行い、問題を見出し、研究計画を立て、実際に調査できた。実習授業の場合、学生が実際に模擬面接を行い、インタビュー方法、利用者とのかかわり方、表現方法などを学ぶことができた。コロナ禍を契機に始めたが、オンラインによるSV陪席で大学院卒業生達の内容の濃い実践的な話を聞いてディスカッションする実習を継続している。将来現場で知っておくべきこと、立ち居振る舞い、支援内容などを解説してもらった。そのことにより内容は踏み込んだものになり、単に見学に出かけるよりも現場で起こりがちな失敗や失敗をカバーする手法や、回避する技術をも学ぶことができた。

5 今後の目標（これからどうするか）演習授業で授業外に個別に資料収集とレポート作成を行う機会を増やす。またビッグデータ等の情報に普段からアクセスできるようにする。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称） 1 リアクションペーパー(非公開)

ティーチング・ポートフォリオ

心理学科 佐藤 哲康

(記入日：2023年2月26日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

【心理学科科目】

青年心理学 (2年次半期：選択必修科目 2単位)、心理演習 (3年次通年：選択必修科目 4単位)、心理実習 (基礎) (3年次通年：選択必修科目 1単位)、

【他学科科目・教職課程科目】

教育心理学 (中高免許状 2年次半期：必修科目 2単位、幼児教育学科 3年次半期：選択必修科目、児童教育学科 1年次半期：必修科目 2単位)、教育相談 (中高免許状 2年次半期：必修科目 2単位、児童教育学科 2~3年次半期：必修科目 2単位)、

【大学院科目】

臨床心理面接特論Ⅰ (大学院半期：選択必修科目 2単位)、臨床心理面接特論Ⅱ (大学院半期：選択必修科目 2単位)、心理療法各論Ⅰ (大学院半期：選択必修科目 2単位) など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

授業の理念や目標は学生が心理学または教育学の専門性を実践で活かすことのできる教育である。人材を育成するためには教科書だけではなく、臨床現場や地域での実践的な活動を通じて得られたこれまでの経験を現状に即して伝えることだと考える。教育を通じて、社会に目を向けた応用力と柔軟な思考力を学生一人ひとりが身につけることも教育目標としている。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

全ての科目において、授業内容をまとめた配布資料とパワーポイントを事前に準備して、Teamsに公開した (エビデンス①)。テキストまたは参考書を指定している科目では予習範囲を指定して、疑問・意見を準備するように求めた。指定していない科目では Teams に公開した資料に目を通し、事前に調べてから授業に参加するように求めた。部分的ではあるが反転授業を取り入れ、

学生に積極的な授業参加と問題把握力が高まる取組みを行った（エビデンス⑤）。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

全ての科目においてリアクションペーパーの提出または **Microsoft Teams** へのコメントを求め、学生の理解と声を即時授業に取り入れた（エビデンス②）。質問については授業内で回答し、必要に応じて **Microsoft Teams** の各科目チャンネルに回答を掲示・共有した。その結果、授業評価アンケートの総合的な満足度項目で 90%の「そう思う」または「どちらかというと思う」の回答が得られた（学科科目 100%，他学科・教職課程科目 87%，大学院科目 91%；エビデンス③）。

5 今後の目標（これからどうするか）

2022 年度は年間通じて学生の表情や反応、理解の確認を心がけた。教職課程科目においても授業の理解度と理解に沿った授業であると高い評価が得られた（教育心理学 84%，教育相談 94%；エビデンス③）。しかし、試験の評価点は 2021 年度と比較して 10 点以上も低いことが明らかになった（エビデンス④）。これらの結果から授業直後の理解は十分であったが短期的なものであり、理解が定着しなかったと考えられる。教職課程科目の理解を教員採用試験の時まで維持していく復習の習慣を根づかせる効果的な学習の取組みを来年度から授業に取り入れたい（例：確認の小テストや中間テストの導入）。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ① 授業で使用した配布資料とパワーポイント（学生のみ公開）
- ② 提出されたリアクションペーパーと **Microsoft Teams** へのコメント（非公開）
- ③ 学生授業評価アンケート（非公開）
- ④ 学生が回答した試験答案（非公開）
- ⑤ 2022 年度講義要綱（公開）

ティーチング・ポートフォリオ

松岡靖子

(記入日：2022年9月14日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

学部：基礎ゼミナール (1年前期必修科目2単位)、発達心理学 (2年後期必修科目2単位)、教育・学校心理学 (2年前期選択必修科目2単位)、心理演習 (3年通年公認心理師科目4単位) など

大学院：臨床心理基礎実習 (大学院1年前期選択必修科目2単位) など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

学生が心に関する幅広い知識を得ることによってその知識を通して学生自身の経験や世の中で起こっている問題を新たな視点から見つめ直し、更に主体的に問題解決の方策を探っていく方法と態度を身につけることを目標として教育を行っている。それにより川村学園女子大学が目指す、激しく変化する社会を柔軟に乗り越えるための「教養」を身に着けた自覚ある女性を育成できると考えている。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

どの講義においても、学生が心理学の知識を自分の経験や世の中の問題とつなげて理解することができるように、知識とつながる具体的な例を多くあげたり、視聴覚教材を利用したりといった工夫を行い、解説している。また、グループワークを取り入れ、自分の考えを伝え、他者と共有し、更に考えを深めるといった経験を重視している。

発達心理学などの講義中心の科目においては教科書の要点をつかむためのプリントを作成し、教科書と自作のプリントを併用しながら講義を行った。また Microsoft Teams の Forms を用い、1回の講義ごとに授業の振り返りコメントの入力を求め、リアクションペーパーの代わりとした。Forms に記入された質問は可能な限り次回講義のはじめに取り上げて回答し、疑問を残しておかないようにするとともに、一方通行ではなく相互のやり取りで講義が構成されるという実感を学生にもたせるように工夫した。

1年生にとって大学生活の入り口となる基礎ゼミナールでは、学生がグルー

プで協議する課題を多数設定し、小グループで学生同士の相互理解を深めながら課題に取り組むグループワークを行うことで、今後の学生生活を支え合う仲間づくりを心がけた。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

講義形式の授業については、学生がそれぞれ自分の経験とつなげ合わせながら理解を深めていることが **Forms** のコメントやレポート、川村学園女子大学令和4年度前期授業評価アンケートで確認された（エビデンス1、2、3）。特に川村学園女子大学令和4年度前期授業評価アンケートにおいては単独担当科目のすべての回答者が授業に「満足できた」もしくは「どちらかという満足できた」と回答し、特に発達心理学の授業に関しては自由記述でも授業プリントを用いた説明がとても理解しやすかったとの感想が寄せられた（エビデンス3）。

5 今後の目標（これからどうするか）

学生がより社会的事象に興味関心を持ち、心理学的視点から考えることができるように事前事後学修を設定し、具体的に促していく。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. **Forms** 記録（非公開）
2. 前期末レポート（非公開）
3. 川村学園女子大学令和4年度前期授業評価アンケート

ティーチング・ポートフォリオ

松岡靖子

(記入日：2023年2月23日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

学部：基礎ゼミナール (1年前期必修科目2単位)、発達心理学 (2年前期必修科目2単位)、教育・学校心理学 (2年後期選択必修科目2単位)、心理演習 (3年通年公認心理師科目4単位) など

大学院：臨床心理基礎実習 (大学院1年通年必修科目2単位) など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

学生が心に関する幅広い知識を得ることによってその知識を通して学生自身の経験や世の中で起こっている問題を新たな視点から見つめ直し、更に主体的に問題解決の方策を探っていく方法と態度を身につけることを目標として教育を行っている。それにより川村学園女子大学が目指す、激しく変化する社会を柔軟に乗り越えるための「教養」を身に着けた自覚ある女性を育成できると考えている。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

どの講義においても、学生が心理学の知識を自分の経験や世の中の問題とつなげて理解することができるように、知識とつながる具体的な例を多くあげたり、視聴覚教材を利用したりといった工夫を行い、解説している。また、グループワークを取り入れ、自分の考えを伝え、他者と共有し、更に考えを深めるといった経験を重視している。

後期共通教育科目のライフプランニングにおいては特に主体的な学びを重視している。心理検査を行って自己分析に結び付けた上で自己 PR の作成を行ったり、就職支援室の見学や、ライフサイクルゲームを用いたグループワークを行ったりなど実際に身体も動かして関わる時間を多く設定している。また、それぞれが興味のある職業・資格・企業などについて1つ自分で決定して調べ、発表するという課題を作っている。短時間ではあるが、1年生から発表の機会を作ることによって今後の準備につながると考える。

教育学校心理学などの講義中心の科目においては教科書の要点をつかむため

のプリントを作成し、教科書と自作のプリントを併用しながら講義を行った。また Microsoft Teams の Forms を用い、1回の講義ごとに授業の振り返りコメントの入力を求め、リアクションペーパーの代わりとした。Forms に記入された質問は可能な限り次回講義のはじめに取り上げて回答し、疑問を残しておかないようにするとともに、一方通行ではなく相互のやり取りで講義が構成されるという実感を学生にもたせるように工夫した。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

講義形式の授業については、学生がそれぞれ自分の経験とつなげ合わせながら理解を深めていることが Forms のコメントや川村学園女子大学令和4年度後期授業評価アンケートで確認された（エビデンス1、2）。特に川村学園女子大学令和4年度後期授業評価アンケートにおいては単独担当科目の9割以上の回答者が授業に「満足できた」もしくは「どちらかという満足できた」と回答し、特に教育・学校心理学の授業に関しては自由記述でも、授業構成が良かったとの感想が寄せられた（エビデンス2）。

5 今後の目標（これからどうするか）

学生がより社会的事象に興味関心を持ち、心理学的視点から考えることができるように事前事後学修を具体的に設定し、自主的な学びを促していく。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. Forms 記録（非公開）
2. 川村学園女子大学令和4年度後期授業評価アンケート